

女性の会「あの町この町見聞録」

田代環境プラザを視察しました
(島田市伊太)

7月21日、「ゴミ問題」について一番身近に接し、感じている町内の女性の会のみなさんが、新しいゴミ処理施設「田代環境プラザ」の視察会を行いました

ゴミの分別などの手間と負担が大幅に減った今だからこそ、改めて考えてみませんか？
いまなお増え続ける「ゴミ」のこと。
女性の会の「テクテク見聞録」をご覧ください。

まずは実行。今日からマイバックで買い物だ！

中田規子さん

7月21日、私たち女性の会は、「田代環境プラザ」の見学に行ってきました。本年度のテーマの一つである「ゴミ問題」の一環として、日頃お世話になっている施設の訪問です。

3月に完成したばかりの白い建物は、傍目にはゴミとは無関係のようなきれいで清潔感あふれる建物でした。この施設の最大の特徴は、以前はゴミを燃やすことで処理し、最後は処分場に埋立処理していたものを、高温溶融処理、つまり溶かすことにより、スラグ・メタルとして再資源化されることです。公害防止対策にも万全の対応を図った最新鋭の施設だそうです。

説明を受けた後、実際に各地から集められたゴミが溜められているピットを見学しましたが、あるある「川根本町」の名入りの見覚えある袋が……。ピットが広くて高さがあり、見下ろす格好なので、ゴミの山はびっくりするほどには見えませんが、よく

見ると、広い室内に積まれているゴミの高さは、なんと13m！すごい量です！

私たちは、いったんゴミとしたものは袋に詰めて集荷場所

にサツと置いてくれば「はい、さよなら」で、もう、

そのゴミとは無縁です、みたいな気がしていません

か？

その、さよならをする前の生活、

今一度考えてみる必要があるのでは

ないかと、このゴミの山を見て思わざるを得ませんでした。

その気になれば、本当に真剣に減らす気があれば、ゴミはいくらでも減らすことが出来ると思います。周りを見渡しただけでも、また自分の生活を振り返るだけでもゴミの減量につながることはたくさんあります。それが地球温暖化の防止に、そして、やがては美しい地球を未来の子どもたちに残すことにつながるのです。

まずは実行！今日からマイバックで買い物だ！

ごみの減量を心がける必要性を感じました

齊藤八重子さん

研修会で、島田市ゴミ焼却施設の視察に



行ってきました。思っていたより広い敷地で、話を聞くと埋め立て地に施設を建て、

3月20日設立したようです。施設内では、各方面からゴミ収集車が来て、ゴミピットの中にゴミを入れます。ゴミピットでは、

5日分(約740トン)のゴミを集めることができ、ゴミクレーンでピットの中のゴミを混ぜながら、溶融炉の中へ入れ、酸素を抜いて高温で完全に溶かすため、ダイオキシンなどが発生しません。その上、金属・セトものの類は、排ガス処理にて捕集されるため溶融物が産出され、その溶融物は急冷後、スラグとメタルに分離され、再資源化されてアスファルト合材などに使用されています。また、剪定枝、食品残渣などもリサイクルして堆肥化されています。

この施設が出来たおかげで、可燃ゴミ、粗大ゴミが出しやすくなり、リサイクルして再資源化できるようになりましたが、私は改めてゴミの減量を心がける必要性を感じました。

私たちが出した「ゴミ」の行き着くところが、一番環境のことを考えているように思えました

大村美也子さん

「ゴミ焼却施設の視察があるんだけど行ってみない？」と誘われ、環境について関心があったので、この研修に参加することにしました。島田市街から曲がりくねった道を登っていくと、大きな建物が現れましたが、煙突から煙が出ていません。どうして焼却するのに煙が出ないの

だろうと不思議に思いながら建物の中に入り説明を受けました。

作業はすべて機械化され、ガラス張りの部屋からのクレーン操作でのゴミ処理は、クリーンで驚きました。

私が一番関心があったのは、ダイオキシン類の対策であったので、溶融炉施設で高温燃焼でガスまでも完全燃焼すること、ゴミの燃えないものはスラグ(アスファルト合材)やメタル(コンボなど重機のウエイト)として再資源化し、埋め立てるものは無害化した灰だけであることを知り、最新の施設の素晴らしさに感心させられました。そして剪定枝や食品残渣はリサイクルされて堆肥として活用されていることも知りました。

私たちの出したゴミが行き着くところが環境について一番考えているように思えました。しかし、環境を考えるがゆえに運営費などもかかることを伺いました。

私もゴミについて、環境について考えてみようと思います。この施設を見学できたことで、大変勉強になりました。

田代環境プラザ 外観

